

広報
5 2018
 平成30年
月号
 No.162

とらみ



Contents ~今月の内容~

特集 健康プラン21(第2次) 中間評価 .. 2	こどもの広場 .. 21
行政出前講座 .. 6	社協だより .. 22
イベントレポート .. 7	砺波総合病院から .. 25
ホットな話題 .. 8	文化となみ .. 26
職員募集 .. 10	文化会館 .. 28
くらしの情報(くらし・行政) .. 11	美術館 .. 29
くらしの情報(講座・教室) .. 14	チューリップ四季彩館 .. 30
くらしの情報(健康・介護) .. 18	図書館・地区特派員だより .. 31
健康カレンダー .. 19	イベント・行事案内 .. 32

4月17日 高波幼稚園児が高波チューリップファームで摘み取りを行いました。

地域おこし協力隊コラム

『拝啓「砺波暮らし」始めました』 「砺波への移住」

こんにちは、地域おこし協力隊2号の野口です。

今年の冬の大雪は凄かったです。その後訪れる春は本当に気持ちが良いです。四季が明確に感じられることも砺波の良さだと感じました。

砺波に移住して2年が経ちました。地域おこし協力隊の任期は最長3年間ですので、残り1年です。このまま砺波に定住したいと思っていますが、そのためには任期後の仕事が必要です。「こんな人材なら欲しい」と必要とされ、地元へ貢献できるような仕事が見つければと思っています。残り1年、そのような縁に巡り会えるように頑張っていきたいと思っています。

さて、今年2月に開催した移住体験ツアーには、真剣に移住を検討している人たちが参加しました。参加者と話していて、私自身が移住前に感じていた不安や苦勞を思い出しました。不安を持ちながら移住してきましたが、地域の人たちのサポートによって、少しずつ不安が消えていきました。「何やってもいいんだよ」と最初に言ってもらったことで、とても心が楽になったことを覚えています。

移住者は、地域に溶け込み、地域のルールに従いたいと



野口 国彦

思っています。ですが、以前の生活から、あまりに急激に変化すると、心も体もついていけないことがあります。時間をかけて段階的に慣れることを考えていただけると、ありがたいなと思います。

私の後にも、砺波に移住してきた人たちがいます。別の地域に住んでいますが、地域の人たちにサポートをいただきながら暮らしています。



移住体験ツアー

このコラムの中で、移住者の「砺波暮らし」もお伝えしていきます。最初は、2016年10月に開催した移住体験ツアーに参加して、その半年後の昨年3月に移住してきた寺輪さん家族を紹介します。

砺波市のビジネス最前線

「地域に必要とされる働き方」に

取組んでいます！

株式会社北陸コンピュータグラフィックス（鹿島）

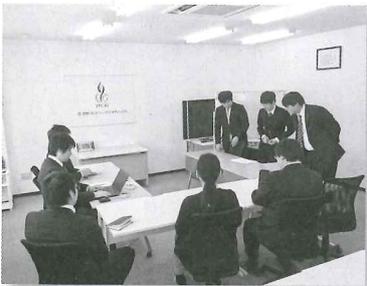
ご紹介する企業は、平成14年に創業し、地図や工業製品の図面作成、ソフト開発やCAD教室など、様々な事業を経て、現在では県外企業から受注したシステムの開発業務を、自社オフィスで行うことができる「テレワーク派遣」を県内でもいち早く導入し、注目されている企業です。

代表取締役の野村氏にお話を伺ったところ、ITバブルが弾けた創業当時、育児をしながらできる職場環境を求めている女性や、さまざまな事情を抱えた求職者と出会ったことで、もっと自由に働ける職場づくりへの思いが徐々に強くなり、「テレワーク派遣」導入のきっかけとなったそうです。

昨今、国で推進されているワークライフバランスや働き方改革は、「以前

より当社で取り組んでいた事であり、ごく当たり前のことですよ」と仰っていたのが印象的でした。その先進的な取り組みは、マスコミ取材や労働局から視察に訪れるほどになっております。

「テレワーク派遣」の導入により、単なる労働時間の短縮ではなく、子育てや介護などの両立と、働きがいを持ってもらえる職場づくりに配慮しながら、最終的には在宅勤務を目指しています。現在、積極的に社員の採用を行っておられますので、ライフスタイルに合わせた働き方を求める方や、IT業界で活躍したい方など、是非ご応募してみたいかがでしょうか。



親睦を深めるためのレクリエーションについて話し合っています。



今春入社の「徳村 美穂」さん。笑顔で男性の多い職場の雰囲気や和やかになります。

商工観光課 ☎33-1111（内線403）